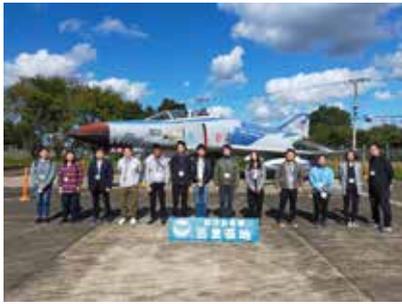




## 百里基地で部隊見学を実施

自衛隊東京地方協力本部府中分駐所（所長 中野 2陸尉）は10月18日、航空自衛隊百里基地において、募集対象者13名に対して部隊見学を実施した。当日は、担当者による基地の概要説明の後、百里救難隊で実際に運用している救難捜索機（U-125A）と救難ヘリコプター（UH-60J）を前に部隊活動等に関する説明を受けた。参加者からは「いつ、どんな場面で活躍するのか。」「や「日頃の訓練内容は？」等の質問があがるなど、興味を持って熱心に見学していた。

その後の管制塔内の見学では、管制塔から戦闘機の着陸を誘導する隊員の行動を目の当りにするとともに、F-2戦闘機のすぐ近くで機体の説明を受けると、普段体験することのできない様々な見学を通じ、航空自衛隊に対する理解を深めた様子だった。府中分駐所では、引き続き創意工夫した募集・広報活動を積極的に実施し、自衛隊の活動に対する理解と関心を高めるとともに、一人でも多くの方に自衛隊に興味をもってもらうよう所員一丸となって努力を重ねていくとしている。



## 産業展で自衛隊の活動を紹介

自衛隊東京地方協力本部（本部長 山下陸将補）は、10月20日から22日までの間、東京都と連携し、東京ビッグサイトで開催された「危機管理産業展（RISCON TOKYO）2021」において広報ブースを出展した。

ブースでは、陸・海・空自衛隊の活動や災害時に役立つ身近なものを使って行う応急処置（東京地本LIFE HACK）の映像を放映するとともに、本年7月に発生した静岡県熱海市の土砂災害における災害派遣活動を紹介する写真パネルを展示したほか、退職自衛官の就職支援制度や予備自衛官等制度についても紹介した。

東京地本のブースを訪れた多くの方々からは災害派遣活動への労いの言葉のほか、「退職自衛官を採用する場合は、どのような手続きが必要か」「予備自衛官になりたいがどうすればいいのか」等の質問があり、防衛省・自衛隊の関心が高まっていることが伺えた。

東京地本は、今後も様々な機会を捉えて情報発信し、自衛隊への理解と信頼を深めるため任務に邁進していくとしている。



## 横須賀基地で海上自衛隊の世界を体験

自衛隊東京地方協力本部府中分駐所（所長 中野 2陸尉）は10月21日、海上自衛隊横須賀基地において、募集対象者15名に対して部隊見学を実施した。当日は、見学時に基地内の全艦艇が出港しており、艦艇見学をすることが出来なかったが、「国防という任務のため、迅速に対応している実情を目の当たりにすることができた」等の感想が聞かれた。

また、タグボートによる湾内の体験搭乗や体験喫食を楽しむ様子や、海上自衛隊らしい組ひもづくり体験では自分が作成した組ひもを早速バッグにつけている参加者の様子もみられた。

さらに見学終了前には、帰港した艦艇を目の前にして説明を受けることができ、見学終了後には「貴重な体験ができた」「知らない世界を見ることができた」「海上自衛隊に入りたいと思った」との感想が聞かれた。

今回の部隊見学では、各種メディアやインターネット等では知ることのできない自衛隊の世界を体験する事ができ、参加者は一様に自衛隊に対する興味や関心を持ったようだった。

府中分駐所では、引き続き創意工夫した募集・広報活動を積極的に実施し、防衛省・自衛隊の活動に対する理解と関心を高めるとともに、各種自衛官募集へと繋がるよう所員一丸となって任務に邁進していくとしている。

